

働き人のための祈り

2025年9月7日

ヘブル人への手紙 13章18～19節
使徒の働き 12章1～17節
マタイの福音書 26章36～46節

序：指導者たちを思い起こし、その信仰に倣う（7節）
” に聞き従う、たましいの見張りの務めを喜んでできるように（17節）

指導者たちの教会（聖徒たちへの要請＝とりなしの祈り）

I. 私たちのために祈ってください

祈り、祈られる交わり

(1) 祈りの内容 (cf. 主の祈り)

神を崇め、神に関する祈願

人間（自分たち）の必要に関する祈願

働き人のためのとりなし

神の召命に応えることができるように

思い、ことは、行動が神のみこころにかなったものであるように

熾烈なサタンの攻撃、自分の内なる罪に勝利できるように

栄光は神に、恥辱は我に帰すように

(2) とりなしの祈りを要請する理由

① 正しい良心をもっているという確信がある (by 内住の聖霊) 内

② 何事についても、正しく行動したいと思っている 外

心情においても、行為においても神と人の前にきよい有益な者とされるよう

(3) 何のことを祈るのか

① 私があなたがたのもとに早く戻れるように（妨げの原因は不明）

② 顔と顔を合わせて親しく相見え、共に語らい、共に祈り、共に食事をして
互いの信仰と交わりが深められ、神のご計画にあづかる希望と感謝を共有
する時が与えられるように

③ 切迫する苦難を前にしながら、それに備え、励まし合えるように

II. 指導者たちのためのとりなし二例

(1) ゲッセマネのキリスト マタイ 26・36～46

① 弟子たちと一緒に来た

わたしと一緒に目を覚ましていなさい

眠っていた弟子たちに「一時間でも、わたしとともに目を覚ましていられな
かったのですか」

② 弟子たちへの同情と祈りの勧め

「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても
肉は弱いのです」

③ 弟子たちの無関心、無理解を越えて、イエスは神に服従する決心、十字架へ
の道を進まれる

- (2) 投獄されたペテロのための教会の祈り 使徒 12・1～17
- ① ヤコブの殉教に続いてペテロの逮捕（教会には衝撃、ペテロの安否が心配）
 - ② ペテロは獄中、教会は熱心な祈り
 - ③ 神主導の救出（奇跡的）⇒ 主の使いの命令と指導に従った結果（確信）
 - ④ 教会（多くの信者）は集まってペテロのために祈っていた
ペテロが祈りの要請をしたわけではないが、そうすることは当然
全き確信に基づいてではなかったが、祈っていた
ペテロの出現に疑い戸惑う信仰者 （一種の矛盾、しかし、祈る我らも
経験する現実でもある）
↓
「信じて疑わずに祈りなさい」
 - ⑤ ペテロの出現、神の救出の証し、ほかの場所への移動

Ⅲ. 応えられる祈りに必要なもの

- (1) 信仰
- (2) 熱心さ
- (3) 忍耐

尚、いっそう祈ってください
そうすれば、念願がかなえられ、道が開かれる
長く再会できていないあなたがたのもとに早く戻れるように

Ⅳ. 結び

- (1) どんな大いなる業も祈りなくしては、成就しない
祈って始めよ、御業をなさる主に信頼し、結末に感謝せよ
- (2) キリストにある者同士、キリストの教会の交わりで最も重要なことは「祈ってください」と頼めることであり、「祈っていますよ」と言える—ことばだけでなく、実際に祈っている—こと
- (3) 何を祈るのが分かって祈る（とりあえず漠然と祈るのではない）
- (4) 神に示されたことは、すぐに祈る 後で祈ろうとすると忘れてしまう
- (5) 祈るなら、「信じて」祈る、「熱心に」祈る、「忍耐をもって、諦めずに」祈る、神がくださる結果を「待ち望んで」祈る、祈って与えられた応えに感謝する
- (6) 一度限りではなく、あらゆる場合に、すべての聖徒たちのために祈る
聖徒たちの中に指導者も含まれている
悪魔の攻撃がもっとも及ぶからであり、弱さや欠点の多い者であり、孤立無援の状態にさえ、時には陥るからである
とりなしの祈りにより、支え合い、励まし合うことができる